

◇ 博物館だより ◇

特別天然記念物 魚津埋没林博物館

Uozu Buried Forest Museum

〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂 814

HP:<http://www.city.uozu.toyama.jp/nekkoInd/>

TEL:0765-22-1049

FAX:0765-23-9105

E-mail:nekkoInd@city.uozu.toyama.jp

1. 博物館概要

富山県魚津市は、富山湾東岸に位置し、幻想的な蜃気楼や新鮮な海産物などで知られる土地である。魚津市はまた、北アルプス立山連峰北端の山群をも擁し、市の最奥部は2400mを超える山岳地帯である。海岸から2415mの最高地点までの奥行きはわずか25km余で、その極端な高度差の間を急流片貝川が貫流している。

魚津埋没林博物館は、片貝川が形成した扇状地末端、魚津市の海岸に立地している。館の歴史は長く、昭和30(1955)年の設立から平成17(2005)年で50周年を迎えたところである。その間、平成4(1992)年には建物や展示を一新した大規模なリニューアルを行い、埋没林を展示する3つの保存館と、蜃気楼の資料などを展示するテーマ館が整備された。

魚津港に隣接して建つ本博物館は、富山湾の奇観である魚津埋没林と蜃気楼を2大テーマとし、そのいずれも現地でも実物に接することができることを最大の特徴としている。

2. 魚津埋没林

魚津埋没林は、約2000年前のスギ原生林跡で、過去の環境変動を実証する貴重な資料として、国の特別天然記念物に指定されている。昭和5(1930)年、魚津港工事現場から直径2m以上、推定樹齢500年以上のスギ巨木の根株など200数十点が出土し、その後の研究で、海面上昇や片貝川の氾濫などによって埋没したものであることが明らかにされた。

昭和5年の発見時と、昭和27(1952)年、平成元(1989)年の発掘調査で出土した生物群から、埋没林の生育時には、原生林の周囲に豊富な湧水があったと推定される。その湧水は、現在も埋没林を覆う扇状地砂礫層の中を流れ、地中の木材を長年月にわたり保存してきたと考えられている。しかし、平成元年の発掘では、隣接した工場に長年野積みされていた石灰などが地下水に溶出して砂礫層がコンクリート状に固化した部分があり、作業が難航したという余談もある。そこでは、手掘りや油圧ショベルでは歯が立たず、鋼材や超硬合金の小刃をもつ工具を取り付けた削岩機が活躍することとなった。加工技術が発掘の現場でも役立っている一例である。

保存館のうち2つは、発掘調査現場をそのままの位置で保存展示し、埋没林の産状を観察することができる(図1)。保存館の一角では、砂礫層の断面剥離標本(図2)や、片貝川産岩石の切断研磨標本(図3)も展示している。片貝川は変成岩地帯を流れ、複雑な縞模様を呈する片麻岩を多く産する。外見上変哲のない普通の石も、研磨され光沢を放つ断面は美

しい。このような場面でも、砥粒加工技術が活かされている。



図1 発掘地での埋没林の保存展示



図2 片貝川扇状地砂礫層断面剥離標本



図3 片貝川産岩石切断研磨標本

3. 蜃気楼

蜃気楼は、温度差(密度差)のある空気層中で光が屈折し、遠方の物体が変形して見える現象で、大別して上位蜃気楼と下位蜃気楼とがある。魚津で単に蜃気楼といえば、上位蜃気楼のことをさし、4～5月を中心に年間10回程度観測される。

上位蜃気楼は、上暖下冷の空気層によって光線が山なりの屈折を起こし、実像の上側に伸び上がりや反転した虚像が現れる(図4～図6)。その時々々の気象条件などにより形は一定ではなく、揺らいだり、伸び縮みを繰り返したりと変化に富み、一説には同じ形のもの二度と見られないとさえいわれる。

シーズン中多数の見物客を集める蜃気楼であるが、その発生は微妙な気象条件に左右され、必ず出会えるというものではない。上位蜃気楼は、晴れて気温が上がり、北北東の微風が吹くなど特定の気象条件の下で、気温と風の微妙な balan



図4 反転像が橋梁状に連なった蜃気楼



図5 背中合わせの反転像を伴う船の蜃気楼

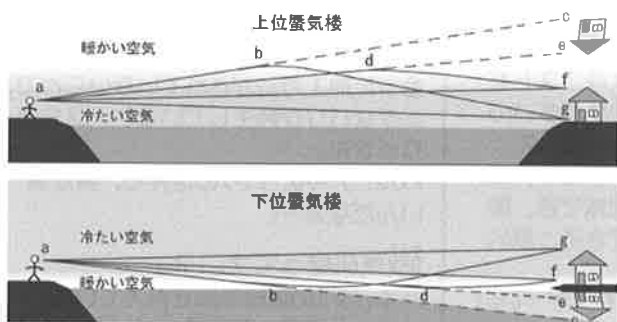


図6 蜃気楼の原理模式図

スが合致して発生すると考えられている。こうしたメカニズムの解明が進めば、将来的には確実な予報が可能になり、蜃気楼に出会える確率も上がるかもしれない。

本博物館では、敷地内から蜃気楼が展望できる立地を活かし、蜃気楼の資料や映像展示のほか、ライブカメラの設置や全国の研究者のネットワークづくりなど、蜃気楼に関する情報の集約・発信基地としての機能も整えている。

4. 地域の自然博物館としての今後

本博物館は、埋没林と蜃気楼という地域固有の特異な事象を2つの大きな柱としている。しかし、館の活動はその2点に特化されているわけではない。本博物館では、市内の動植物や地質など、埋没林と蜃気楼を包含するバックグラウンドとしての郷土の自然全般をも視野に入れた調査研究や情報の集積を進めている。そして郷土の自然全体を見渡すことで、あらためて埋没林や蜃気楼という特徴的な事象の位置付けや価値を再認識することもできよう。

魚津埋没林博物館は、50周年という大きな節目を通過したばかりである。現在を新たなスタートとしてこれから先の50年を考えると、我々が今日にしている自然や社会は、必ずしもその存在を保証されたものではない。元来それらは絶えず変化していく性質のものであることに加え、温暖化など、自然界にも人間社会にも大きな影響を与えかねない種々の問題が表出している昨今、現在の延長線上での持続を考えることは難しくなっている。こうした状況を踏まえ、郷土の自然の過去と現在の資料と情報を集積し、それを未来へ伝えることは、地域に根ざした自然系博物館の使命である。かつて繁栄した巨木林が環境変動によって滅びた痕跡である埋没林を一つのキーワードに、人と自然の過去、現在、未来を考える場として本博物館の存在意義をアピールしていきたい。

なお、本文中でも若干触れたように、一見加工技術とは無縁に見える本館のような博物館であっても、発掘や研究、展示製作などさまざまな段階で、加工技術は不可欠である。博物館活動を支える隠れた力として、砥粒加工をはじめとした各種の技術の貢献と発展を期待している。

【博物館案内】

所在地：〒937-0067 富山県魚津市釈迦堂 814

TEL:0765-22-1049 FAX:0765-23-9105

E-mail: nekkolnd@city.uozu.toyama.jp

休館日：12月～3月中旬の月曜日と祝日の翌日

12月29日～1月1日(4月～11月までは無休)

開館時間：9時～17時(入館は16時30分まで)

入館料：大人(高校生以上) 510円(団体410円)

子供(小中学生) 250円(団体200円)

(団体は20人以上)

駐車場：普通車約100台、大型6台

交通：JR北陸線魚津駅から徒歩25分

北陸自動車道魚津I.C.から車10分

H P : <http://www.city.uozu.toyama.jp/nekkolnd/>

(文責 石須秀知)